

若山牧水生誕 140 年記念事業

「あなたが選ぶ牧水の一首」結果発表

応募総数 335 名

【内 訳】○居住地 市内 215 名、県内(日向市外)66 名、県外 54 名

○性 別 男性 134 名、女性 199 名、不明 2 名

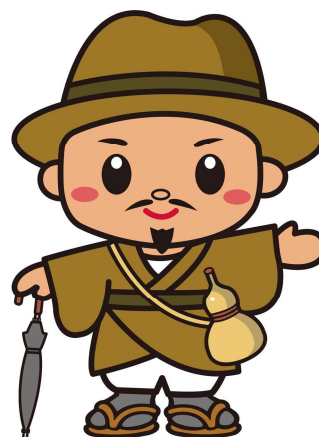
○年 代 20 代未満 55 名、20 代 9 名、30 代 20 名、40 代 29 名、50 代 46 名、
60 代 51 名、70 代以上 119 名、不明 6 名

【募集期間】令和 7 年 11 月 7 日～令和 8 年 1 月 31 日

1. 投票結果

※短歌の前の数字は募集時の順番の番号。表中は二句までの表示に省略。

順位	短歌	回答数	回答割合(%)
104	白鳥は哀しからずや	49	14.63
217	若竹の伸びゆくごとく	40	11.94
302	けふもまたこころの鉦を	36	10.75
403	幾山河越えさり行かば	30	8.96
516	うすべにに葉はいちはやく	25	7.46
612	ふるさとの尾鈴の山の	23	6.87
713	飲むなと叱り叱りながらに	23	6.87
810	白玉の歯にしみとほる	21	6.27
911	かんがへて飲みはじめたる	16	4.78
1009	かたはらに秋ぐさの花	11	3.28
1101	樹は妙に草うるはしき	9	2.69
1105	山を見よ山に日は照る	9	2.69
1306	いざ行かむ行きてまだ見ぬ	8	2.39
1319	足音を忍ばせて行けば	8	2.39
1507	父の髪母の髪みな	6	1.79
1518	上つ瀬と下つ瀬に居りて	6	1.79
1708	ふるさとのお秀が墓に	5	1.49
1814	妻や子をかなしむ心	4	1.19
1915	啼く声のやがてはわれの	3	0.9
1920	芹の葉の茂みがうへに	3	0.9



2. 居住地ごとの順位（上位5首）

市内在住者順位

順位	短歌	回答数
1	04 白鳥は哀しからずや	34
2	17 若竹の伸びゆくごとく	33
3	02 けふもまたころの鉦を	23
4	16 うすべにに葉はいちはやく	21
5	10 白玉の歯にしみとほる	16

県内在住者（日向市外）順位

順位	短歌	回答数
1	13 飲むなと叱り叱りながらに	12
2	04 白鳥は哀しからずや	8
2	03 幾山河越えさり行かば	8
4	17 若竹の伸びゆくごとく	6
5	02 けふもまたころの鉦を	5
5	12 ふるさとの尾鈴の山の	5

県外在住者順位

順位	短歌	回答数
1	02 けふもまたころの鉦を	8
2	04 白鳥は哀しからずや	7
2	03 幾山河越えさり行かば	7
4	13 飲むなと叱り叱りながらに	5
4	12 ふるさとの尾鈴の山の	5

3. 性別ごとの順位（上位5首）

男性順位

順位	短歌	回答数
1	17 若竹の伸びゆくごとく	16
2	02 けふもまたころの鉦を	14
3	03 幾山河越えさり行かば	13
4	04 白鳥は哀しからずや	12
4	10 白玉の歯にしみとほる	12
4	11 かんがへて飲みはじめたる	12

女性順位

順位	短歌	回答数
1	04 白鳥は哀しからずや	37
2	17 若竹の伸びゆくごとく	24
3	02 けふもまたころの鉦を	22
4	03 幾山河越えさり行かば	17
5	16 うすべにに葉はいちはやく	15
5	12 ふるさとの尾鈴の山の	15
5	13 飲むなと叱り叱りながらに	15

4. 年代ごとの順位（上位5首）

20代以下順位

順位	短歌	回答数
1	02 けふもまたころの鉦を	12
2	04 白鳥は哀しからずや	7
2	17 若竹の伸びゆくごとく	7
4	10 白玉の歯にしみとほる	6
5	01 樹は妙に草うるはしき	4
5	06 いざ行かむ行きてまだ見ぬ	4

30～50代順位

順位	短歌	回答数
1	17 若竹の伸びゆくごとく	20
2	04 白鳥は哀しからずや	13
3	03 幾山河越えさり行かば	11
4	02 けふもまたころの鉦を	8
4	10 白玉の歯にしみとほる	8

60代以上順位

順位	短歌	回答数
1	04 白鳥は哀しからずや	28
2	13 飲むなと叱り叱りながらに	20
3	16 うすべにに葉はいちはやく	19
4	03 幾山河越えさり行かば	16
5	02 けふもまたころの鉦を	14
5	12 ふるさとの尾鈴の山の	14

※参考 候補 20 首

01	樹は妙に草うるはしき青の國日向は夏の香にかをるかな
02	けふもまたころの鉦をうち鳴しうち鳴しつつあくがれて行く
03	幾山河越えさり行かば寂しさの終てなむ国ぞ今日も旅ゆく
04	白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ
05	山を見よ山に日は照る海を見よ海に日は照るいざ唇を君
06	いざ行かむ行きてまだ見ぬ山を見むこのさびしさに君は耐ふるや
07	父の髪母の髪みな白み来ぬ子はまた遠く旅をおもへる
08	ふるさとのお秀が墓に草枯れむ海にむかへる彼の岡の上に
09	かたはらに秋ぐさの花かたるらくほろびしものはなつかしきかな
10	白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけれ
11	かんがへて飲みはじめたる一合の二合の酒の夏のゆふぐれ
12	ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ秋もかすみのたなびきて居り
13	飲むなと叱り叱りながらに母がつぐうす暗き部屋の夜の酒のいろ
14	妻や子をかなしむ心われと身をかなしむころ二つながら燃ゆ
15	啼く声のやがてはわれの声かともおもはるる声に筒鳥は啼く
16	うすべにに葉はいちはやく萌えいでて咲かむとすなり山桜花
17	若竹の伸びゆくごとく子ども等よ真直ぐにのばせ身をたましひを
18	上つ瀬と下つ瀬に居りてをりをりに呼び交しつつ父と釣りにき
19	足音を忍ばせて行けば台所にわが酒の壺は立ちて待ちをる
20	芹の葉の茂みがうへに登りみてこれの小蟹はものたべてをり